

令和2年度第2回東大阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者懇談会
議事要旨

【開催概要】

1. 開催日時 令和3年1月12日（火）
2. 場所 東大阪市役所本庁6階 OARoom【Cisco Webexにて開催】
3. 出席者
有識者 布施公共職業安定所 稲葉所長
日本政策金融公庫東大阪支店 芝田支店長
株式会社 商工組合中央金庫 東大阪支店 隅田支店長
近畿大学 経営学部 高橋教授
東大阪労働団体連絡協議会 田中代表委員
株式会社ジュピターテレコム J:COM プロダクション関西 長尾センター長
東大阪商工会議所 阪上専務理事
東大阪大学 吉岡学長代理
事務局 松本企画財政部長、竹本企画室長、飯田課長、谷総括主幹、平田係員

【次第】

- 1 第2期東大阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

【資料】

- ・第2期東大阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）

【有識者より意見】

戦略というものを東大阪市がどのように捉えているのかと思いました。戦略とは、具体的に何をするのかそこ書かれているものと私は考える。

この素案は、現状や課題についてはよくわかるが、何故そのような数字が出ているのかその理由が分からない。理由が分からないので具体的な方策、これを戦略と呼ぶのではないかと考えるのですが、それがありません。

何故、東大阪から転出が続くのか理由が分からないままで議論が成り立つのでしょうか。戦略というものの位置づけは何なのか。後からまた議論された中身が示さるのでしょうか。現状と課題について意見を申し上げる役割だったのででしょうか。

⇒具体的な事業については、実施計画の策定と合わせて行っており、追いついていない状況である。本日については、現状と課題の説明を行っているところである。

それであれば戦略素案ではなく、現状と課題の説明と整理したほうが良いのではないかと。⇒ご指摘の通りです。

素案を聞かせていただいて、こうすべき等、その素案にアドバイスにではなく、現状と課題をお聞かせいただいたということによろしいですね。

⇒今回の会議では申し訳ないですがそうなっている。

理由は確認しているのですか。例えば、転出される方に声掛けをして、ヒアリングをされていることはあるのですか？

⇒ヒアリングはしていませんが、総合計画策定時に転出された方にアンケートを取っており、その中で、子育てや生活環境の理由で他市を選択されている方がたくさんいる。治安や子育てで他市が選ばれているところはある。

そうであれば、子育てについて、具体的にこのように関係部局と議論している等が出てこそその戦略である。

⇒実施計画策定の過程において調整中である。

ではどういう意見を言えばプラスになるのか。

⇒現状や課題において、東大阪市の考えているところと専門的な立場からの意見、人口や経済についてなどがそぐう内容なのか確認したい。

ぜひ HOW と WHY を書いていただければと思います。

何故その現状がでてきたのか、そのようにして政策を進めていて、うまくいっているとか

うまくいっていないとか教えていただいた方が議論が進むし、的確な意見ができるように思う。例えば、大学卒業したら人口が減ってってしまうのは大学の数が多い都市にはよくある話だが、その世代を伸ばそうとする気持ちがあるなら、例えば20代の女性を絶対に逃がさない意識がお持ちなら、その世代をペルソナとして作り上げ、逃がさないアイデアがあるのかなのか、専門家の皆さんに聞いた方が少しでも役に立つのではないかと思う。

【有識者より意見】

別の会議でも人口問題等議論され、重点1の部分が中心で話が出ているが、重点1とか2とか3とか当然行政側でそれぞれ論議されていると思うが、それを集約されて戦略の案を作っておられると思うが、聞いている内容が重複していて、課題はそれぞれのところまででいる課題がそのまま出ている気もする。そうするとこの会がいろんな部署での話が総合的に市として生かして、どうしていくかと話題になると思いながら、反映されていないのではと思った。

⇒事業の部分は実施計画で詰めているところで、具体的な話が出ていないところがある。実施計画を詰めたうえでお示ししたい。

【有識者より意見】

実施計画はどのセクションでつくっているのか

⇒企画課です。

実施計画の議論はどのようになされている。

⇒全庁から議論を洗い出し、課内で選定し、最終的に市役所内の庁議で決定している。

総合計画のように別の会議体があるなら、この会議体の存在意義とは何かと思ったのでお伺いさせていただいた。庁内の議論したものを我々からまた議論させていただける会議体なのか、こうした材料を、いわゆる生データベースで拝見させていただいたうえで、もっと様々なアイデアを出すことを期待されている会議体なのか、趣旨、位置づけを教えていただけるとありがたい。

⇒会議開催の目的がはっきりしておらず申し訳ないと思っております。

このまち・ひと・しごと創生総合戦略、特に第2期の戦略については、総合計画にリンクさせようとした、特に10年の前半部分の5年間の課題を解決するための戦略を盛り込むべき方針になる。本日お示ししている部分についてはだい3章、概ね総合計画をなぞったものであるが、それ記載しているとともに、第4章以降掲げている重点施策を実行していくための個別施策、予算、事業を3分野において全庁的にあげていこうということになっています。そこについては原局と企画と調整中で、お見せするにはいたっておりません。4月までに完成させた暁にはそれぞれの分野に掲げてまいりますので、確定させる前にも

う一度ご意見頂戴できればと思っております。本日については、第3章までの我々の認識と有識者の皆様のご見識と差異がないかの確認をさせていただくとともに、重点施策を考えるにあたってのヒントをお伺い出来れば、今後の計画づくりに役立つのではないかと考えている。

他の市でも総合計画の審議会とまち・ひと・しごとの委員会の位置付けがフアジーになっていて役割が何か整理をしていただいて、我々に課された役割がどこにあるのか整理していただくと議論がスムーズにできるようになるのではと考えている。

外国人が増えていることに対して、さきほどの説明ではそれはそれでいろいろな課題が出てくると説明があった。その課題が何かを明らかにしていただきたい。外国人が増えることは東大阪市にとっては受け入れる事か。モノづくり企業で採用される外国人、ベトナム人が増えている現状に対して、外国人に依存していくことは目に見えて明らかである。どんな課題が各地で生まれているが、愛知県や群馬県などでの他市での課題解決をどのようにされているのか。それとも抑制の方向に動いていくのかどちらでしょうか。

⇒本市においても多文化共生の専門部署をつくっている。外国人が増えている流れは継続していくとかがえている。こぼむものでない。こども教育面、生活習慣、労働環境の面から習慣上の違いから問題がでてくると考えている。外国人が増えていることがわかったところなので対応を担当課と調整している。入管法等の改正により、大きく東大阪市でも変わってきている。そういった中でいかに増えていくところをプラスに捉えて、外国人にとっても住みやすい東大阪市をめざす取り組みを進める。

その方向が正しいだろうと思う。そこで従来からお住まいの住民の方からみて、海外からの方を受け入れるにあたってどういう風に見ているかアンケートをとったことはあるか。
⇒データは無いが今年度、ヒアリング調査を行いたい。洗い出し等遅れているが次年度からの施策を作り上げていきたい。

異文化の衝突は当たり前のようにおこる。それをいかにして乗り越えるかが具体的に戦略に書かれていくことが大事だと思う。

⇒教育員会の中で外国人が増えていると、日本語の問題や環境になじめないと、こどもの時に教育、生活面からのアプローチ、大人も巻き込み、企業へのアプローチにつなげる取組を考えている。意見を参考に作り上げたいと考えている。

【有識者より意見】

戦略として、3つの重点課題があげられている。往々にして、3つの部門で別々のものとして考えていく。まちづくりとして、行政の区画割になる恐れがある。それぞれにまちづくりは関係している。それぞれに関係づけてまちづくりをすることが大事だと考えている。重

点3つをどのように東大阪市として、作り上げていくのか、横のつながり、柱だけあげてしますとまた部門別になってしまわないかという気がしました。

⇒3つの重点施策に紐づけるように洗い出しているなかで、重点施策をまたぐ取り組みであったり、どれにも該当しない取り組みも出ている。3つの切り分けにこだわるのではなく、市全体として進むべき道を検討したい。

これから東大阪市のモノづくりのまちを末永く継続するためには外国人の労働力は重要なファクターであると考えている。高井田のモノづくり企業を訪ねると、ベトナムからの実習生や正職員を雇っている状況である。その様子をお伺いすると非常に力になっていると聞いている。また必ずしも、東大阪市で就職しなくても他市で働いて、市で居住していただくような取り組みを積極的に行っていきたい。市内の企業が外国人労働者をうけ入れるにあたってのノウハウなど総合戦略中にうたえたらと考えている。一方で、東大阪に住まわれる外国人の雇用問題や労働環境について、支援できることをしていくべきだと考えている。すでに住まわれている方との文化の違いなど、地域によっては集中している地区等ありますので、まず啓発等をしていくよう考えている。

またまさに縦割り行政、従来型ではだめだということだと思うが、高齢者が活躍することと子育てはマッチングにより両立すると考えている。そういったところに足りないところがあればご意見ご指摘をいただきますようお願いいたします。

【有識者より意見】

まちづくりの方向性というところで、東大阪市の3本の柱をだしていただいているが、その方向性としてどうかという意見となっていくと思っていたが、その後の具体的な部分での意見か？

⇒その部分での意見。

国としては氷河期世代の就職、マッチング促進に力を入れている。

外国人、女性の子育て世代の活躍、高齢者、少子高齢化で人口減少のなかで、こういった世代をどのように活用していくのかは、雇用を支える柱になる。また、産業の根幹であるモノづくりの部分についてもふれていただければと思った。

【有識者より意見】

この懇談会で何を議論するのかはつきりさせたいうえで会議をしたほうがよかったと思う。4章ができてきた段階で、もう一度会議を行うと考えてよいか。

⇒今年度中に開催したい。

現状と課題に違和感がないかについて言うと、細かいが、3ページの下から3行目、4行目の表現は、東京圏との話でこういう表現でよいか。

⇒東京圏に対して、本市に入ってくる人が少なく、出ていく人が多い表現になっている。

(8 ページ)

東大阪市とのつながりにおいて、関係人口の説明が書いているが、国等が書いた文章を引っ張ってきている印象がある、東大阪市が主語ならこういう表現ではないと違和感を感じる。人口が減少している、20 歳以降が減っている理由等が書いていないので、しっかり書いていただいて、こういう施策をすとはっきりさせていただいた方がよい。

【有識者より意見】

本社を大阪市に移そうと考えている会社がちらほらとある。これまでに移っている会社もある。その中でどういう風に動いていくのか考えたほうがよい。東大阪の特徴は何か考えたときに、働く場のイメージが強い、そこに優位性があると思う。どうしても人口というと夜間人口かもしれないが、昼間の人口との兼ね合いを考え、具体的な施策を示していただくと議論しやすいのではないかと思った。

【有識者より意見】

前半のコロナ禍での影響のところでは DX を論じられている、中身の方では DX、Society5.0 の活用で生活の利便性を上げていく内容だと思う。DX 戦略はこれからの戦略ですので、これをうまくアピールして、地域外にもアピールして、新しい市の魅力を築く可能性はある。子育て分野の DX、仕事に関する行政的支援を進めるなどが見えにくいと感じた。検討会議を設置して進めると書いてあるが、これから進めていくための組織でしょうか。

⇒推進会議についてこれから市内の DX 化を進めていく会議として設置している。

DX は多種多様な分野にわたるので、入口のところで整理して聞かせていただければと思います。

【有識者より意見】

東大阪市が出している直近の資料で東大阪市が非常に住みやすいまちと認識している。交通の便が良く、病院も多いということで若者には受け入れやすいという文書を見たがギャップが生じていると感じている。

モノづくりのまちを推進するとの意見も出たが、外国人の労働者受け入れ環境も必要で、それ以外にも、経営者の高齢化が進んでいるので事業承継等も問題であると感じている。

【有識者より意見】

この会議において、どの程度のところまで議論したらよいか今後教えていただいて、議論させていただきたい。

【有識者より意見】

外国人の方の話が出ていたが、考える上では、外国人が働きやすいまちにするのか、住みやすいまちにするのか考えると、教育とか子育てに専門にしている立場から言うと、つい子供もや家族が住みやすいという部分が弱いというか欠けていると感ずることがある。

家族が東大阪に来たとして、そこで暮らすときに学校に行くが、永住するか、母国に帰るかによって、教育の在り方、支援の仕方が変わってくる。どういったニーズを外国人の方々が持たれているのか、十分に慎重に調査したうえで、施策を進めないと、教育が中途半端にならないかと常々思っていたのであえて話させていただく。

⇒意見を参考に調査を進めさせていただく。

【有識者より意見】

①外国人労働者及び移住者増進施策については賛成ですし、今後も推し進めて頂きたい。

②以前、質問させて頂いたのですが、空き家の有効利用を同時に推進頂ければ、人口確保に繋がると思いますのでよろしくお願ひ致します。

以上